

市立奈良病院を受診された患者様へ

当院では下記の臨床試験を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用又は提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名	奈良県の大動脈緊急症トリアージシステムコアの構築に資する後ろ向き臨床研究
当院の研究責任者	所 属：循環器内科 責任者：石神 賢一
他の研究機関および各施設の研究責任者	<p>○研究代表者： 奈良県総合医療センター 心臓血管外科 山中一朗</p> <p>○共同研究機関： 奈良県西和医療センター 総長 斎藤能彦 同 院長 土肥直文 奈良県総合医療センター 副院長 川田啓之 奈良県立医科大学 心臓血管外科 教授 細野光治 同 循環器内科 教授 彦惣俊吾 天理よろづ相談所病院 救急診療部長 近藤博和 市立奈良病院 循環器内科 部長 石神賢一 高の原中央病院 循環器内科 部長 片岡一明 大和橿原病院 副院長 中嶋民夫 高井病院 循環器内科 部長 上田一也 近畿大学奈良病院 講師 東儀圭則</p> <p>○研究協力機関： 奈良県消防救急課 課長補佐 土井康弘</p>
本研究の目的	<p>奈良県では、2010年より、救急搬送時にe-MATCHシステムを開発し、症状ごとに適切な施設への搬送システムを実施していますが、胸痛を有する患者さんについては、胸痛搬送ルールを整備し、急性冠症候群や大動脈緊急症を救急隊員が疑えば、24時間365日冠動脈カテーテル検査の実施可能な県内10施設へ搬送する仕組みを確立しています。その中でも重篤な疾患である大動脈緊急症（急性大動脈解離、大動脈瘤破裂、大動脈外傷など）は、時間経過とともに救命率が低下する予後不良の救急疾患であり、かつ、治療可能な病院が限られているため、救急体制が救命率向上に重要なウエイトを占めます。大動脈緊急症の発生現場において、①救急隊による適切な状況把握、②把握した情報に基づく適切な搬送先の選定、③搬送先病院との情報連携の3つが初期対応で重要です。</p> <p>このe-MATCHシステムに各患者さんに対する救急隊からのアンケート機能が追加され、搬送情報をより詳しく収集することが可能になりました。そこで、胸痛搬送ルールで搬送した患者さんを対象に、各々のバイタルサインや症状を、救急隊からアンケート機能を使用して収集し、搬送先の病院で大動脈緊急症と診断された患者さんのバイタルサインや症状との</p>

	<p>関係を調べることによって、大動脈緊急症を事前に診断するアルゴリズムを作成することを目的としています。</p>
<p>調査データの該当期間</p>	<p>2023年11月1日～ 2025年10月31日</p>
<p>本研究の対象及び方法 (使用する試料等)</p>	<p>本院におきまして、2023年11月から2025年3月の胸痛により緊急搬送された患者さんのカルテ情報から最終診断、転帰情報を収集します。 匿名化したうえで管理しますので、患者さんのプライバシーは厳密に守られます。</p>
<p>試料・情報の 他の機関への提供</p>	<p>患者データは研究用の符号もしくは番号を付与し対応表を作成します。 対応表は各研究参加施設の研究責任者のアクセス制限のあるパソコンで厳重に管理します。</p>
<p>個人情報の取り扱い</p>	<p>本研究で得た臨床情報の保存は論文発表後10年間を基本としており、保存期間終了後は、臨床情報を完全に削除します。ただし、研究の進展によってさらなる研究の必要性が生じた場合には10年間を超えて保存させていただきます。</p>
<p>本研究の資金源 (利益相反)</p>	<p>「利益相反」とは、研究成果に影響するような利害関係を指し、金銭および個人の間接的な関係を含みますが、本研究ではこの「利益相反」は発生しません。</p>
<p>お問い合わせ先</p>	<p>T E L : 0742-24-1252 担当者：循環器内科 石神賢一</p>
<p>備 考</p>	